

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成30年7月31日※1
(前回公表年月日:平成29年10月30日)

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 専門学校 東京テクニカルカレッジ | 設置認可年月日 昭和62年3月27日 | 校長名 白井雅哲 | 所在地 〒164-8787 東京都中野区東中野4-2-3 (電話) 03-3360-8881 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|---|-----------------------|---|--------------------------|---|-----|-----|--------|----|------|------|---------------|---|-----|----|--------|---|-----|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人小山学園 | 昭和49年10月23日 | 山本 匡 | 〒164-0001 東京都中野区中野6-21-16 (電話) 03-3360-8831 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工業 | 工業専門課程 | インテリア科 | 平成14年文部科学省 告示第26号 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | インテリア業界の求める専門知識およびデザイン・コーディネート能力を有し、ベースとしてのデジタル技術を修得した即戦力となる中核的専門技術者であって、かつインテリアコーディネーターならびに二級建築士として業界で活躍できる人材の育成を目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成 26年 3月 31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 昼間 | 1920時間 | 750時間 | 540時間 | 1170時間 | 0時間 | 0時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 160人 | 48人 | 11人 | 4人 | 3人 | 7人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■1学期: 4月 4日～ 5月22日 ■2学期: 5月23日～ 7月13日 ■3学期: 8月27日～ 10月23日 ■4学期: 11月 1日～ 12月27日 ■5学期: 1月10日～ 3月 6日 | | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期末に実施する履修判定試験の点数によって評価を行う。科目によっては課題点等も考慮することがある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始: 4月 4日 ■夏季: 7月13日～ 8月26日 ■冬季: 12月28日～ 1月 9日 ■学年末: 3月 7日～ 4月 3日 | | | 卒業・進級条件 | 卒業にあつては履修時間表で定められた全ての履修科目の履修を、進級にあつては当該年度の全ての履修科目の履修を、条件とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学習目標未達成者・欠席者に対する補講の実施 長期欠席者への個別指導、保護者への連絡、家庭訪問等を実施 | | | 課外活動 | ■課外活動の種類 学園祭実行員会、学内行事学生スタッフ、学内カフェスタッフ ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) ハウスメーカー・リフォーム業界・建築設計・建築施工業界 株式会社ミサワホーム/パナホーム株式会社/株式会社アキュラホーム/株式会社アーネストワン/タクトホーム株式会社/山商リフォームサービス株式会社/株式会社ヤマダ・ウッドハウス/株式会社モーリコーポレーション/株式会社ライフ設計事務所/株式会社BLISS/株式会社コジキ/株式会社西建設社など ■就職指導内容 1年各期末に全科合同で就職プログラムを実施 女子学生のための就職ガイダンスを実施 留学生のための就職ガイダンスを実施 各科にて、履歴書等の確認、模擬面接等を実施 ■卒業生数: 21 人 ■就職希望者数: 17 人 ■就職者数: 17 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 81 % ■その他 ・進学者数: 0人 | | | 主な学修成果 (資格・検定等) ※3 | (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インテリアコーディネーター</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) | | | 資格・検定名 | 種別 | 受験者数 | 合格者数 | インテリアコーディネーター | ③ | 14人 | 3人 | 色彩検定3級 | ③ | 21人 | 15人 | | | | | | | | | | | | |
| 資格・検定名 | 種別 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| インテリアコーディネーター | ③ | 14人 | 3人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 色彩検定3級 | ③ | 21人 | 15人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|------------------------|--|----------------|
| | | ■自由記述欄 特になし |
| | (平成 29 年度卒業者に関する 平成30年5月1日 時点の情報) | |
| 中途退学 の現状 | ■中途退学者 2名 ■中退率 4% | |
| | 平成29年4月1日時点において、在学者50名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者48名(平成30年3月31日卒業者を含む) | |
| | ■中途退学の主な理由 経済的困窮や家庭の事情、心身の不調等 | |
| | ■中退防止・中退者支援のための取組 中退防止を含む学生指導の窓口は、全てクラス担任が担っている。その上で、経済的困窮に関しては学務室が奨学金等の斡旋を行うなどの対応を行い、心身の不調や家庭の事情に関しては、その内容に応じて科長や事務長、副校長が個別相談を実施している。いずれの対応も、「学生指導記録データベース」によって情報を共有し、迅速で適切な対応を心掛けている。 | |
| 経済的支援 制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 特待生制度、後援会企業奨学金制度 ■専門実践教育給付：給付対象 前年度給付実績者数：0人 | |
| 第三者による 学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | |
| 当該学科の ホームページ URL | URL: http://www.tera-house.ac.jp | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本科における教育課程の編成においては、インテリア業界の実務者として必要とされる基礎的素養を身に付けさせることはもちろん、業界動向ならびに新技術の動向等もふまえて必要とされる知識・スキルを修得させることを目標としている。このことを実現させるために、また、形骸化しがちな資格偏重教育に陥らないための教授法や教材開発のために、本科では、業界諸団体等の意見を積極的に活かし、職業実践的かつ専門的能力育成に必要な内容を科目に落とし込むために、外部の関係者との間に密接な情報交換の場である「教育課程編成委員会」を設け、カリキュラム編成の参考にする体制を組織的に構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本科では、上記(1)で掲げた基本方針を実現させるために、かねてより卒業生が在籍する企業等との間に「建築系高度教育研究会」を設け、カリキュラムやシラバスの立案や教材開発、学生の成績評価にご協力を頂いてきた。この委員会は、本科の人材目標とカリキュラムの整合性の確認や、輩出した卒業生の業界での活動実態を把握することも目的の一つとしてきたが、今般、この「専門部会」を、職業実践専門課程の申請にあたって「建築・インテリア系教育課程編成委員会」と命名変更し、あらたに教育活動基盤形成のための組織として位置付けることとした。

当委員会の使命は、これまで同様、カリキュラムやシラバスの立案や教材開発、学生の成績評価であるが、今後はより企業との連携を前面に打ち出し、実習・演習科目において更なる充実を図ることとしている。なお、本委員会は、組織上は副校長の直下に組織され、校長を委員長として業界団体や有識者、企業関係者などの外部委員の他、教務部長、科長を内部委員として本科の教務関係の検討を行い、理事会への諮問をもってカリキュラムの変更等の承認を得る重要組織として位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|---------------------------------|--------------------------------|----|
| 可児才介 | 一般社団法人 東京建築士会、 可児アトリエ | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | ① |
| 霜野 隆 | 一般社団法人 インテリアプランナー協会、 株式会社レスト | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | ① |
| 樋口 修 | 東京商工会議所 中野支部 株式会社 ヒグチ設計 | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | ① |
| 須永 裕之 | 清水建設株式会社 | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | ③ |
| 中山 聡 | 前田建設工業株式会社 | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | ③ |
| 大塚 雄二 | 一般社団法人 建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所 | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | ③ |
| 宮脇 伸歩 | 株式会社LIXIL | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | ③ |
| 高瀬 恵悟 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 本部長 | 平成29年4月1日～平成31 年3月31日(任期2年) | |
| 白井 雅哲 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長 | 平成29年4月1日～平成31 年3月31日(任期2年) | |
| 小川 貴伸 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 企画部部長/事務長 | 平成29年4月1日～平成31 年3月31日(任期2年) | |
| 杉本安雄 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 建築監督科科長 | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | |
| 野上 和裕 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 建築科科長 | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | |
| 鈴木 昇 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 建築科夜間課程科長 | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | |
| 高山 寿一郎 | 専門学校東京テクニカルカレッジ インテリア科科長 | 平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年) | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年次委員会を4月～8月期に一度、12月～3月期に一度の2回開催する。また、年度末に卒業研究・卒業制作を中心とした学習成果発表会に参加いただき、カリキュラムおよび学習目標の達成度を確認・評価いただく。なお、必要と認められる場合は臨時委員会を開催する。
なお29年度実施日時(実施予定日時)は以下とする。

(開催日時)

第1回 平成30年 7月20日 15:00～17:00

第2回 平成30年11月22日 15:00～17:00

第3回 平成31年 3月14日 13:30～17:00(卒業研究・卒業制作等学習成果発表会を兼ねる)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会に於いて、H22年よりすべての建築に省エネルギーへの対応が求められたことから、省エネルギーについて課題の中に入れてはどうかというご指摘を頂いた。それをふまえ、1年4期の建築設備1(全6回授業の内2回)にて、省エネルギー型給湯機器(エネファーム、エコウィル、エコジョーズ、エコキュート)、太陽熱、太陽光、地中熱を利用した空調設備。1年5期の建築設備2(全6回授業の内2回)にて、サステナブル社会に向けての取り組み、再生可能エネルギー、スマートハウス(ZEH、HEMS)の講義を加える改善を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

●企業連携授業「校外学習」の基本方針

インテリアは決して教室だけでは学べない。例えば、ハロゲンランプを見ることもなく「ハロゲンランプは演色性がよい」と丸暗記して専門知識を得たかのように思うことに何の意味があるのか。また、インテリアという専門分野が取り扱う事項は、糸・布といった素材からカーテン・家具・家電・設備・住居・都市まで非常に広範多岐に渡る。すなわち、それらは我々の生活すべてと言ってよい。また、我々の現代生活は日進月歩であり、例えば照明ひとつとっても、「LED」「有機EL」「無電極ランプ」など進歩は止まることがない。これら進歩し続ける広範多岐の分野を、学校側が教材として学生に提示することは不可能である。

インテリア科の「校外学習」は、2年間で20団体以上23回の企業連携を得ながら、学生に最新の事物・情報を提示し、インテリアをより具体的にとらえ活用できる専門知識として身につけさせることを目標とし、授業および学習成果の評価等を実施する。

●企業連携授業「建築設計実習12・13」の基本方針

就職活動において多くの企業から現在の学生は「問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力」が不足していると言われる。グループワークを中心に商業施設の課題に取り組むことで、不足していると言われる3つの能力を同時開発することを目指している。指導に当たっては、実務に即した計画プロセスを経て、より具体的で説得力のある提案になるようインテリアデザイン事務所2社から2名の講師を招き、学科専任教員とともに、授業および学習成果の評価等を行うチームティーチングを実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

●企業連携授業「校外学習」の企業等との連携内容

インテリア商品の販売に関しての基本事項(インテリア実務)、衛生機器等の水回りの商品に関しての基本事項(建築計画2)、ベット・マットレスに関する基本事項(建築計画3)、キッチンに関する基本事項(建築計画4)、照明に関する基本事項(建築計画7)、建具に関する基本事項(建築計画9)、カーテン・ブラインドに関する基本事項(建築計画10)、木質材料に関する基本事項(建築材料1)、ファブリックスに関する基本事項(建築材料2)、タイル・石材に関する基本事項(建築材料4)、塗料・石膏に関する基本事項(建

半平手頃(建築材料3)、アパルトメント(建築材料4)、空室・工日(建築材料5)。住空間の計画に関する基本事項(建築設計製図3)。

●企業連携授業「建築設計実習12・13」の企業等との連携内容

当科2年生4・5期の建築設計実習では、商業施設を中心とした既存の都市空間の問題点を発見し、その改善策を策定し、新たな都市空間の提案することを、グループワークを中心に取り組む。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|-------------|---|------------------------------|
| 建築計画3 | 【個室計画】 個室空間の空間構成と、用いられるインテリアメントに関して理解を深める。 | フランスベッドホールディング(株) |
| 建築計画4 | 【キッチン計画】 キッチンの空間構成と、用いられるインテリアメントに関して理解を深める。 | クリナップ(株) |
| 建築材料1 | 【木質材料】 木材および木質加工品の種類・特徴および最新の動向に関して理解を深める。 | 特定非営利活動法人 木材・合板博物 |
| 建築材料5 | 【塗装左官】 塗装左官材の種類・特徴および最新の動向に関して理解を深める。 | 日本ケイソウ土建材(株) |
| 建築設計実習12/13 | 【商業施設の基本設計】 商業施設を中心とした既存の都市空間の問題点を発見し、その改善策を策定し、新たな都市空間の提案を行う。 | apgm*デザインアトリエ (有)コバヤシデザイン |

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校では、専門学校教員には実務、学術、教授力の3つの要素が欠かせないと考えており、そのそれぞれの専門性を向上させるためには、現状の能力等を適切に評価し、改善点を明確にした上で、適宜研修等による育成策を実施しなければならないと考えている。

以上の様な考え方に基づき、本校では各教職員の適性や要スキルアップ項目等を見極めた上で、「小山学園研修規定」ならびに「東京テクニカルカレッジ教職員研修方針」、「同 教員研究方針」に基づき、研修・研究計画の立案や実施を行っている。具体的な内容としては、主に企業や団体に依頼する形で実施される「専門性向上研修」や「教授法研修」、学内での集合研修が中心となる「教育界認識研修」などがあげられる。これらの研修は、年度計画に基づいた校長指示により実施されるが、教職員自らが自己研鑽に務めることを目的として自ら研修・研究の実施を希望する場合においても、校長判断によりこれを認めることがある。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

□JAPANTEX(参加者:高山・大室、11/17、東京ビッグサイト)

□「現在のインテリアショップの業務、家具の販売業務に関する事例」(参加者:高山、2/7、(株)プレステージジャパン)

□「現在のオフィス空間の造り方、各企業で使用されているデジタルサイネージなどの「情報システム」の活用方法」(参加者:高山、2/14、パワープレイス(株))

②指導力の修得・向上のための研修等

□「3つのポリシー(ディプロマポリシー)策定に関する研修」7/31(参加者:全教職員、7/31)

ディプロマポリシーの策定および教員の一体的な指導を強化するために、各科の人材目標および卒業時の学生の仕上がり具合を確認・共有する。

□「卒業生アンケート結果に関する報告研修」(参加者:全教職員、7/31)

各科の教育内容・学生指導方法を向上させるために、第2回卒業生アンケート結果をもとに現行教育活動の問題点を抽出・共有する。

□インテリア・インターンシップ・インコーポレーション研修報告会(参加者:高山・大室、11/25、共立女子短期大学)

(3)研修等の計画

例えば、2000年以來専門知識・技術の習得のために90分間毎の授業評価を実施するなど履修改単に取り組んできたが、その一方自ら問題を発見し解決する能力などの開発も重要であるとの指摘を受けてきた。そうした指摘をふまえて、PBLの手法を取り込んだ問題解決型授業「リアルジョブプロジェクト(以下RJP)」の創設・実施に取り組んできた。RJPに関しては、半期に一度の委員会において進捗状況を報告するとともに、年度末に成果報告を高覧いただき、その都度意見をいただき改善に努めてきた。その成果として、学科横断・企業連携による学内カフェ開設を達成し、学生の問題解決能力等の向上を図ることができた。また、RJPを正規科目として登録する際には、PBLにおいてそのプロセスを公正に評価する方法が必要との指摘を受けて、授業毎・期毎・年度毎の3種類のルーブリック評価票を開発し、学習の成果ならびに学生の成長を見える化することに取り組んできた。

また卒業生委員からは、卒業生と学校、卒業生同士のつながりが弱いとの指摘を受けた。それをふまえて、一昨年度から卒業後1年・5年・9年経った卒業生を対象に「卒業生調査」を実施、学習成果を確認するとともに学内改善の基礎資料とすることとした。また同時に同窓会の活性化に向けてあらためて取り組みを開始した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月1日現在

| 名 前 | 所 属 | 任 期 | 種 別 |
|--------|---|----------------------------|-----|
| 安藤 拓也 | 株式会社 miwa | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 卒業生 |
| 渡邊 和彦 | データテクノロジー株式会社 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 卒業生 |
| 澤坂 智之 | 株式会社 スケアクロウ | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 卒業生 |
| 立田 由里子 | 独立行政法人 理化学研究所 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 卒業生 |
| 大沼 友紀 | 建築科 保護者 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 保護者 |
| 萩原 浩明 | 情報処理科 保護者 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 保護者 |
| 安藤 修弘 | 環境テクノロジー科 保護者 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 保護者 |
| 樋口 修 | 東京商工会議所 中野支部 株式会社 ヒグチ設計 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 地域 |
| 中山 典隆 | 東京商工会議所 中野支部 有限会社 イプシロン | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 地域 |
| 岸 哲也 | 東中野五丁目小滝町会 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 地域 |
| 大塚 雄二 | 一般社団法人 建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 企業等 |
| 霜野 隆 | 一般社団法人 インテリアプランナー協会 株式会社レスト | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 企業等 |
| 杉山 司 | 特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会、桔梗ICTパートナーズ株式会社 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 企業等 |
| 川戸 茂 | 株式会社 システム・ユー | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 企業等 |
| 佐々 義子 | 特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 企業等 |
| 小野寺 洋子 | 株式会社 光英科学研究所 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 企業等 |
| 高瀬 恵悟 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 本部長 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |
| 白井 雅哲 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |
| 井坂 昭司 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 副校長/情報処理科科長 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |

| | | | |
|--------|-----------------------------------|----------------------------|----|
| 小川 貴伸 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 企画部部長/事務長 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |
| 杉本安雄 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 建築監督科科长 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |
| 野上 和裕 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 建築科科长 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |
| 鈴木 昇 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 建築科夜間課程科长 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |
| 高山 寿一郎 | 専門学校東京テクニカルカレッジ インテリア科科长 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |
| 川辺 伸司 | 専門学校東京テクニカルカレッジ Web動画クリエイター科科长 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |
| 松田 達夫 | 専門学校東京テクニカルカレッジ ゲームプログラミング科科长 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |
| 大江 宏明 | 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科科长 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |
| 今野 祐二 | 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科长 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(任期2年) | 学内 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法：(ホームページ)・広報誌等の刊行物 (その他)(自己評価報告書)

公表時期：毎年7月31日を原則とする。

URL:<http://www.tera-house.ac.jp/tec/disclosure/index.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、実践的な職業教育を行う教育機関として、関係業界等のニーズを踏まえ、どのような理念・目的・目指す人材像等を掲げて取り組んでいるか適切な説明を行う必要があるという認識のもと、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づいた評価項目をもって、学校関係者に情報公開を積極的に行い、学内外に対して普遍的判断のつく教育活動の透明性の証明の為に情報を公表する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|---|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | テクニカルHP＞学校紹介＞建学の精神・学園理念 テクニカルHP＞学校紹介＞校長挨拶 学園HP＞学園概要 |
| (2)各学科等の教育 | テクニカルHP＞学科紹介 |
| (3)教職員 | テクニカルHP＞公開情報 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | テクニカルHP＞就職＞就職サポートプログラム テクニカルHP＞学校紹介＞仕事場カリキュラム |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | テクニカルHP＞学校紹介＞授業の特長 学園HP＞教育への取組み |
| (6)学生の生活支援 | 学園HP＞入学案内・奨学金＞奨学金/融資制度 テクニカルHP＞キャンパスライフ |
| (7)学生納付金・修学支援 | 学園HP＞入学案内・奨学金 |
| (8)学校の財務 | テクニカルHP＞公開情報 |
| (9)学校評価 | テクニカルHP＞公開情報 |

| | |
|---|---|
| (10)国際連携の状況 | 学園HP > 学園概要 > 海外姉妹校・協力校 テクニカルHP > キャンパスライフ > 海外研修制度:海外短期留学研修 テクニカルHP > キャンパスライフ > 海外研修制度 > 建築・インテリア海外研修 |
| (11)その他 | — |
| ※(10)及び(11)については任意記載。 | |
| (3)情報提供方法 URL: http://www.tera-house.ac.jp | |

授業科目等の概要

| (工業専門課程インテリア科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|-------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|--|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | |
| ○ | | | 専門導入1 | 【PCリテラシー】 パソコンの基本的な取り扱いができるようになる。キーボードから文字入力ができるようになる (MS Wordを利用して、日本語の入力方法や、文章の編集、罫線や表を利用したレイアウトができる)。ノーツデータベースの参照・メールのやりとりができるようになる。ネットワーク利用基準を理解し、ネチケットに従った使用ができるようになる。コンピュータの内容や個人情報を守らなければならないことを理解し、安全な使い方ができるようになる。 | 1① | 30 | | ○ | | | ○ | | ○ | | | |
| ○ | | | 専門導入2 | 【情報リテラシー】 MS Excelによる、データの管理方法を学習し、リスト作成や、データ集計、グラフの作成ができる。MS PowerPointを使用して、写真、文章、図などをまとめてプレゼンテーションのスライドが作成できる。これにMS Wordを加えた3つのアプリケーションソフトは、社会人になって仕事でよく使用する。書類を作成したり、見積書を作成したりクライアントにプレゼンテーションを行う時など必須になる為、使いこなせるように学習しておく必要がある。 | 1① | 15 | | ○ | | | ○ | | ○ | | | |
| ○ | | | 建築概論1 | 【インテリア概論】 インテリア業界の概要と、今のインテリアに関連する代表的なキーワードを学ぶ。それにより、インテリアデザインを学ぼうと志した今、自分は何を知っているか、これから何を学ばなければいけないかを知る事を目的とする。 生徒参加型授業で、各自がインテリアに対する興味や意欲を自覚・認識し、これからの学習への興味・やる気を高める。 今、知らないことは恥ずかしいことではない。しかしこれからは情報を蓄積して、自分のインテリアに関する引き出しをいっぱい持つことを心がけ、2年間しっかり勉強して欲しい。 | 1① | 15 | | ○ | | | ○ | | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---|----|----|--|--|--|--|--|---|---|---|---|--|---|
| ○ | | 建築概論2 | <p>【インテリアの見方・伝え方】 この春、皆さんの前に「インテリア」という一本の道（専門分野）が開かれた。本インテリアの見方と伝え方では、数々のインテリアや建築作品を探究する中で、「インテリアとは何か?」「インテリアとはどのような存在か?」などインテリアのもつ本質に迫っていききたい。取り扱う題材は、古今東西を問わず、規模も小住宅から大都市におよびます。また、講義の後半には実際に前川國男邸を見学し、前川邸を題材に建築・住宅の本質を一緒に考えてみたいと思う。 本講義が、皆さん各自がインテリアを考えるきっかけとなり、これから本格的にはじまるインテリアという専門分野を、より深く掘り下げるための一助となることを期待する。</p> | 1① | 30 | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | 人間工学 | <p>【人間工学】 室内の設備・家具などのインテリアエレメントや、生活空間の広さ、規模を考えると基本となるものはその中心にいる人間である。そして、人体寸法や動作・人間の行動の特性を知って、人間と機械系の間で、安全で使いやすい関係を追求する科学分野を「人間工学」とよぶ。本デザイン原論Ⅰにおいては、インテリアをかたちづくる寸法をひとつひとつ分析し、インテリアにおける寸法がどのように決定されていくか考えていくとともに、「人間工学」の基本的な考えを理解し「人間工学」のインテリアへの応用を学ぶ。本講義が、これから始まるインテリアデザイン・インテリアコーディネートにおける美しく合理的な考え方の礎になることを期待する。</p> | 1② | 15 | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 環境工学 | <p>【環境工学】 人類は古くから身を守り、生活の質を上げるための住空間をつくってきた。そして、太陽光や風などの外部環境を取り入れたり遮断したりし、近年では、設備技術の進歩により居住環境を人工的にコントロールできるようになった。便利で快適な室内環境を手に入れることができるようになった反面、ガス中毒やシックハウス症候群といった室内空気質の悪化による人体へのリスクや、地球環境へ与える問題が起きており、快適で質の高い生活を送るために進歩した設備が、うまく機能していないことがしばしば見受けられる。 この講座では、熱・空気・光・音などの性質を理解し、自然環境と共存しつつ健康で快適な生活を送れる空間をデザインするための知識を習得する。</p> | 1③ | 15 | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | 建築史1 | <p>【近代デザイン史】 インテリアに関する歴史を学び、デザインの様式に関わる基本知識を歴史の面から学習する。ギリシャ、ローマ、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロック、ロココ、ネオクラシズム、モダニズム様式など多岐に渡る基本的な知識を身に付け、日本や世界のインテリアデザインやインテリアコーディネートの造形的背景を把握し、設計実習やインテリアコーディネートに応用する。今回は特に、産業革命以降から現代、さらにポストモダンまでを学習する。</p> | 1② | 15 | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | 建築史2 | <p>【西洋史】 インテリアの関連する歴史を学び、デザインの様式に関わる基本知識を歴史の面から学習する。ギリシャ、ローマ、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロック、ロココ、ネオクラシズム、モダニズム様式などの多岐にわたる建築・インテリア・デザイン史の基本を身に付け、日本や世界のインテリアデザインやインテリアコーディネーションの造形的背景を把握し、これを設計実習やインテリアコーディネーション実習に応用できる技術を身に付ける。</p> | 1③ | 15 | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---|----|----|--|---|--|--|---|--|--|---|--|--|--|--|--|
| ○ | | 建築史3 | <p>【日本史】 先史。古代、中世、近世、近代そして現代の日本の住宅を中心とした歴史を学ぶ。特に各時代の生活、文化を背景とした住宅の成り立ちについて学ぶ。これらの歴史（＝生活＋文化）の学習から、生活の根源的問題と意味（食べる、安らぐ、眠る、招く、装うなど）について個々に考える機会を与える。</p> | 1④ | 15 | | ○ | | | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | 建築設備1 | <p>【住宅設備1】 建築設備は、給排水設備、給湯設備、換気設備、冷暖房・空気調和設備、電気設備、通信情報設備など多岐にわたっています。いずれも建物の環境を適性な状態に保つもので、建物の性能にも深く関わっています。ここでは住宅の設備を例に取り上げながら、より快適な空間をつくるための設備の基礎を学ぶ。なお、電気設備、通信情報設備については5期の「住宅設備2」で学ぶ。</p> | 1④ | 15 | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | | |
| ○ | | 建築設備2 | <p>【住宅設備2】 住宅設備1では、給水設備、給湯設備、排水設備、換気設備、冷暖房・空調設備について学びました。本講座では、住宅における電気設備について学習する。具体的には電気の基礎知識、受電（引き込み）方式、幹線と分岐回路、スイッチ・コンセント、照明設備、情報伝達（通信）設備などについて学習する。また、6・7回目はインテリアコーディネーター試験で出題されている住宅設備に関する部分について総合的に復習を行う。</p> | 1⑤ | 15 | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | | |
| ○ | | 建築構造1 | <p>【木構造】 この授業では、木構造について学んでいく。 建築物の設計には設計者のそれぞれの意図があり、それに基づいて各種のデザインの建築物が造られているのは言うまでもない。しかし、どのようなデザインの建築物でも、各部位にはそれぞれ要求される基本的な性能があり、設計者は、建築物のデザインに適した仕上げ材料や構法を考えなければならない。同時にそれをどのように施工するかも考えなければならない。これから住宅設計を行っていくうえでおさえておかなければいけない事項を、自分の設計に活かせるように知識として身に付けてほしい。</p> | 1⑤ | 15 | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | | |
| ○ | | 建築構造2 | <p>【鉄筋コンクリート造・鉄骨造】 この授業では、鉄筋コンクリート構造、鋼構造の代表的な構造について学んでいく。 建築物の設計には設計者のそれぞれの意図があり、それに基づいて各種のデザインの建築物が造られているのは言うまでもない。しかし、どのようなデザインの建築物でも、各部位にはそれぞれ要求される基本的な性能があり、設計者は、建築物のデザインに適した仕上げ材料や構法を考えなければならない。同時にそれをどのように施工するかも考えなければならない。これから住宅設計を行っていくうえでおさえておかなければいけない事項を、自分の設計に活かせるように知識として身に付けてほしい。</p> | 2① | 15 | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | | |
| ○ | | 建築施工1 | <p>【インテリア施工】 建築・インテリアに携わる者として、顧客に満足してもらうためには、密実な計画のもと作業を行わなければならない。また、施工者は、それを工程表として作成し、工事がどのように進んでいき、どのような問題点があるのかを把握しなければならない。この授業は、施工計画の大まかな把握とネットワーク工程表の読み取り、内装工事、木工事、鉄筋コンクリート工事、鉄骨工事に関し実務者として必要な知識の習得を目指す。</p> | 2② | 15 | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|--|----|----|--|---|--|--|---|---|---|---|---|
| ○ | | 建築実務1 | <p>【インテリア実務】 「インテリア」と一口に言っても、カバーする仕事の範囲は非常に広い。業界全体を理解するとともに、実際に仕事をしている人たちの話を聞くことで、実務の実態を知る。 これから就職活動を経て社会に出て仕事を就く上で、自分の仕事のポジショニングを見極め、次のステップを考える基礎知識として活用できるよう、インテリア実務の現場に対する知識と理解を深める事を目的とする。</p> | 1⑤ | 15 | | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 建築実務2 | <p>【情報と販売】 『インテリアコーディネーターの仕事』は、コンサルティングセールスである。実際に仕事をしていく上で、求められている役割、コンサルティングセールスの内容、必要な情報、販売実務などについて学ぶ。 関連する知識として、マーケティングの基礎知識についても、社会人として知っておくべき用語を中心に学ぶ。 インテリアコーディネーター資格試験にも直結するので、実務に即しながらも知っておくべき専門用語についての理解を深めていきたい。</p> | 2① | 15 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 建築計画1 | <p>【ユニバーサルデザイン】 衛生器具メーカーのカタログブック「バリアフリーブック～住まいの水回り編」をサブテキストとし、特に住宅の水周り空間を中心に、その最新の商品情報とその商品を利用したプランニング解説及び事例を学ぶことで、住空間におけるバリアフリーおよびユニバーサルデザインの計画手法を理解する。</p> | 2② | 15 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 建築計画2 | <p>【サニタリー計画】 サニタリー空間とは、トイレ・洗面室・浴室などの水廻り空間の総称である。それらの空間は我々の生活の欠くことのできないスペースであるばかりでなく、近年、生活に潤いを与えるスペースとしても付加価値が求められてもいる。本講義では、そうしたサニタリー空間の基本的構成とサニタリー空間のインテリアエレメントの基本的あり方を学んでいく。また、授業内ではショールームやホテルの客室の校外学習も計画している。そうした貴重な機会を十分に活かして、サニタリー空間のあり方を学び取ってほしいと思う。また、同時に並走する実習授業「設計実習Ⅰ」とともに、サニタリー空間に対する深い理解に達することを期待する。</p> | 1② | 15 | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| ○ | | 建築計画3 | <p>【個室計画】 個室空間とは、他人から妨げられないプライバシーの保てる空間を意味しており、基本的に快適な睡眠と快適な個人的行為をする場として適切であることが求められる。本講義では、個室に求められる理想的な環境条件を整理するとともに、睡眠や個人的行為を充足させるためのベッドなどのインテリアエレメントの基本的あり方を学んでいく。 また、授業内ではベッドのショールームやホテルの客室の校外学習も計画している。そうした貴重な機会を十分に活かして、個室空間の理想的なあり方を学び取ってほしい。また、同時に並走する実習「プライベートスペースの計画」とともに、個室空間に対する深い理解に達することを期待する。</p> | 1② | 15 | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|---|----|----|--|--|--|---|--|--|--|---|---|--|---|---|
| ○ | | 建築計画4 | <p>【キッチン計画】</p> <p>キッチンは、住宅の中で最も「作業」が集中する場所であり、また一般的に新築時において主婦の関心が一番高い空間である。</p> <p>最近ではライフスタイルの変化に伴い、ダイニングスペースを含めた食事の場を、家族が唯一集まる場所として、住空間の中でも重要度の高い空間として計画するようになって来ている。</p> <p>また、オール電化住宅など、設備面の進歩・変化も重要なポイントである。</p> <p>インテリアを学ぶ者として、機能性・デザインの両面から適切なプランニングができるよう、講義と校外授業、そして簡単な演習をとおして、キッチン計画の基本を学びとってほしい。</p> | 1③ | 15 | | | | ○ | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | 建築計画5 | <p>【LD計画】</p> <p>住空間におけるパブリックスペースとは、LDKなどの家族が集い憩う空間を意味している。本講義では特にリビングとダイニングに着目し、現代の住空間の中で家族が集い憩うためにどのような空間構成が必要とされ、またどのようなインテリアエレメントを準備構成する必要があるのか考えていきたい。</p> <p>また、関連講義内では家具やキッチンのショールームの校外授業も計画している。そうした貴重な機会を十分に活かして、LD空間の理想的なあり方を学び取ってほしい。同時に並走する実習「パブリックスペースの計画」とともに、LD空間に対する深い理解に達することを期待する。</p> | 1③ | 15 | | | | ○ | | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 建築計画6 | <p>【家具計画】</p> <p>家具本体だけでなく、その歴史、それを取り巻くインテリアエレメントも含めて学習する。まず西洋と日本の家具に対する考え方の違いをそれぞれの家具の歴史から学ぶ。その上、主なもの家具の種類、機能を学習し、さらにそれを取り巻く周辺のインテリアエレメントと家具との関係を学ぶ。以上の理解を基本に、リビングルーム、ダイニングルーム、寝室の家具のレイアウト技術を習得する。最後に実際に家具ショップを見学し、最新に家具の動向を学習する。</p> | 1④ | 15 | | | | ○ | | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 建築計画7 | <p>【照明計画1】</p> <p>照明は、インテリアエレメントの中で、最近特に重要度が高くなっている分野である。</p> <p>インテリアに関心の高い消費者は照明にも関心があり、インテリア空間を活かす照明計画が求められている。したがって仕事をする上では、初心者の段階からしっかりした専門知識が必要である。また、環境への配慮から省エネについての関心も非常に高まっており、LEDに代表される新しい光源や配灯方法などの技術開発も進んでいる。</p> <p>本講座では、光のメカニズム、光源の種類、照明器具の種類などを学び、室別の基本的な照明計画ができるよう、照明の基礎を学ぶ。</p> | 1⑤ | 15 | | | | ○ | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | 建築計画8 | <p>【照明計画2】</p> <p>人間の知覚の大半を占める「視覚」は光によって造られる。「照明」は空間を構成する重要な要素の1つであり、人の感情や空間の雰囲気を変える力がある。この講義では1年5期で学習した内容を土台にして、より実践的な照明の「知識」「設計」「手法」や「照度計算」など、技術的な部分まで多角的な学習を行う。また、実際の照明器具や照明空間を見て、感じる事が照明を学ぶ上でとても大切な経験になる。照明は答えのない深い世界であり、この講義を通じて照明計画が自主的に出来るよう期待する。</p> | 2③ | 15 | | | | ○ | | | | ○ | ○ | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--------|---|----|----|--|---|--|--|---|---|---|---|---|
| ○ | | 建築計画9 | <p>【建具計画】 インテリアの空間は基本的に床・壁・天井から構成されているが、その空間には必ず出入りするための開口部や外部から光や空気を取り入れる開口部が必要となってくる。建具とはそうした開口部を構成する重要なインテリアエレメントである。建具は空間に応じた開口部の大きさや開閉方式等が検討され、機能性と意匠性を調和させたデザインが求められている。建具のグレードはその建物全体の質を表すことにもつながる。建具は大きく分けて外部建具と内部建具に分かる。ここでは外部建具と内部建具の機能と種類、開閉方法、錠前、金物等、多岐にわたる建具の知識を学習する。</p> | 2① | 15 | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | 建築計画10 | <p>【ウインドウトリートメント】 カーテン、ブラインドに代表される、ウィンドートリートメントについて学ぶ。 住宅のインテリアプランでは、必ず必要なアイテムであり、最近ではヒダを取ったカーテンだけではなく、様々なスタイルの商品が製造販売されている。同時に併走する建築材料3(ファブリックス)の授業と連動しながら理解を深めてほしい。 また、授業内では2社の校外授業において、素材のサンプリング実習を計画している。 商材のグレード、カタログの利用の仕方、商品タグの見方、ショールームでのサンプル収集の方法など、窓廻り製品における実務に直結する技術も身につけてほしい。</p> | 2② | 15 | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | 建築材料1 | <p>【木質材料】 日本では、建築・インテリアの材料として、木材が最も広く利用されてる。木造住宅は言うまでもなく、RC造や鉄骨造の建築でも、内装材や家具となると主役はやはり木材と言える。しかし、そうした状況にかかわらず、私達の木材および木質材料に関する理解は、非常に浅いものにすぎない。 本講義では、インテリアのスペシャリストとして、インテリアに用いる材料を適切に使いこなせるようになることを目標に、我々が日々接している木材およびそれらの加工品である木質材料に注目し、それらの種類や特長また技術革新による木材の最新の利用方法などに関し理解を深めていく。 本講義を終えた後、木質材料に関する理解が深まり、ひいては、実務の現場において木質材料を適切に使いこなすための礎が形成されていることをのぞむ。</p> | 2② | 15 | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | 建築材料2 | <p>【コンクリート・金属材料】 本講座では、建築材料のうち、主に構造材料について学んでいく。講座の中心となるのは最も重要な建築材料の一つである「コンクリート」であるが、複合材料であるこの材料を専門的に理解することは、なかなか一筋縄ではいかない部分もある。まずはその主要な構成要素であるセメントや水、骨材の関係を正しく把握し、更にセメントと水を混ぜることによって生ずる化学反応「水和反応」のメカニズムを理解することを第一の目標とする。なお、理解を深めるための一つの方法として、講座の途中で「コンクリートの調査(練り混ぜ)」や「材料実験」の授業の回を設けている。 それ以外の項目としては、構造材料の種類と特徴、品質管理の考え方、各種金属材料(鋼材、ステンレス・スチール、アルミニウム)などについても学ぶ。また、構造材料ではないが、アスファルトについても取り上げる。 これらの材料はインテリアからは多少縁遠い存在かも知れないが、知っていれば将来の仕事の幅が広がり、何よりも建築・インテリアに関する重要な教養の一部である。卒業と同時に二級建築士の受験資格が与えられるが、その為にも必要となる知識でもある。ぜひ興味を持って授業に臨んで頂きたい。</p> | 2① | 15 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---------|--|----|----|--|--|--|---|--|--|---|--|--|---|--|--|--|
| ○ | | 資格対策講座2 | <p>【インテリアコーディネーター技術2/設備】 建築設備は現代の我々の生活に欠かすことのできない重要な要素であり、特に六本木ヒルズなどの超大形高層ビルに出入りすると、そこはある意味できれいな内外装をまわってはいらぬものの巨大な人工環境を提供する巨大な設備プラントのようにも見えてくる。本講義においては、本格的に建築設備を学習する前段階として、給排水、空調換気、電気設備などの設備技術がどのように現代の社会生活を支えているのか見ていくとともに、その基本事項を広範に取り上げていきたい。本講義が4期以降に学習する建築設備の序論として基本事項を理解する一助になるとともに、1ヶ月半後に迫ったインテリアコーディネーター試験（技術編）を突破する一助になることを期待している。</p> | 1③ | 15 | | | | ○ | | | ○ | | | | | | |
| ○ | | 資格対策講座3 | <p>【インテリアコーディネーター技術3/環境工学】 私たちは「太陽光」「雨」「寒暖」「日射熱」等から身を守るためにすまかを造ってきた。そのすまかをより快適な生活空間へと変えるためにあらゆる努力をしてきましたが、自然との共存していくことを忘れてはならない。自然を破壊しないで人間にとって快適空間を造るには、太陽光の性質・空気の性質・温度と湿度・熱の性質・色彩の原理を知り上手く取り入れていく方法を知ることである。これらを学ぶことにより快適空間の計画ができるようにする。</p> | 2② | 15 | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| ○ | | 資格対策講座4 | <p>【インテリアコーディネーター販売1/住宅設備機器】 住生活をより快適にするためのさまざまな機器類を総称して住宅設備機器と呼んでいる。これらの機器類は主に台所、浴室、洗面トイレに集中しているが、住宅における機能を支える重要なものがある。また住宅設備は性能や品質に日々改良が加えられ、常に新しいものが生み出されている。ここでは、インテリアコーディネーター資格1次試験合格を目標とした住宅設備機器類の学習に取り組み、過去問題や問題演習を通して住宅設備の知識を確かなものにしていく。</p> | 2② | 15 | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| ○ | | 資格対策講座5 | <p>【インテリアコーディネーター販売2/インテリア材料】 インテリア・建築技術の進歩は、デザインや力学的見地からより進んだ材料を要求し、施工技術は、早さ、美しさや経済性、環境保護などに適合する材料の選択、発展を促進してきた。インテリアと建築の材料は、大きく分けると構造材と仕上げ材に分けることができる。この授業では、インテリアコーディネーターにとって必要とされる、床、壁、天井の仕上げ材などについての知識を確認し、インテリアコーディネーターの1次試験合格を目標とした学習に取り組む。</p> | 2③ | 15 | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| ○ | | 資格対策講座6 | <p>【インテリアコーディネーター販売3/インテリアオーナメント】 この授業では、①テーブルウェアとキッチン用品、②インテリアオーナメント、③エクステリアエレメント、と、異なった3つのジャンルについて学ぶ。 それぞれはインテリアの主役とは言えないが、暮らしの中で欠くことの出来ないエレメントである。入門編として、それぞれの基礎知識を学び、現在の生活の中での位置づけを学んでいく。 特別授業では、インテリアグリーンを取り扱う企業に来校いただき、インテリアの中でのグリーン（植物）の役割について、実際の作品を見ながら学んでいく。</p> | 2③ | 15 | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----------|---|----|----|--|--|---|--|--|---|---|--|---|---|--|--|--|--|--|
| ○ | | 資格対策講座7 | <p>【インテリアコーディネーター/論文】 自分の考えを人に伝えるための1手段として、論理的な文章を書くことを学ぶ。実務においては、「企画書」「報告書」「仕事上の手紙」等々、オフィシャルな文章を書く機会が多くある。ビジネスの現場では当然の事ながら、簡潔でわかりやすく、論理的な文章が求められる。いくつかのポイントをマスターし、実際に文章を書く訓練を重ねることで、文章作成力は向上していく。 この授業では、毎回小論文作成の実習に取り組む。IC資格試験2次対策を中心に授業を進めるが、資格対策を超えて、この6回の授業で実務に就いて役立つ文章力を身につけてほしい。</p> | 2④ | 15 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 資格対策講座8 | <p>【インテリアコーディネーター/プレゼンテーション】 12月初旬のインテリアコーディネーター資格試験合格を目標にした対策に取り組む。前半は過去問題を実習として行い、規定時間内（140分）に完成するよう訓練する。後半は今年度予想問題を実習として行い様々な条件・状況に対応できるよう訓練する。</p> | 2④ | 30 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | | | |
| ○ | | 資格対策講座9 | <p>【色彩検定3級1】 色を実際のデザインに活かしていくには、理論を学ぶことが必要である。色が見える仕組みや色の分類法、色の伝達方法（表色系・色名）、混色、色の見え方、色の心理効果、配色方法などの知識を身につけることにより、インテリアをはじめ、ファッションや商品パッケージなど様々なデザイン領域のカラーコーディネートに応用・活用することができる。</p> | 1① | 15 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 資格対策講座10 | <p>【色彩検定3級2】 色を実際のデザインに活かしていくには、理論を学ぶことが必要である。色が見える仕組みや色の分類法、色の伝達方法（表色系・色名）、混色、色の見え方、色の心理効果、配色方法などの知識を身につけることにより、インテリアをはじめ、ファッションや商品パッケージなど様々なデザイン領域のカラーコーディネートに応用できる。</p> | 1② | 15 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 資格対策講座11 | <p>【福祉住環境コーディネーター3級1】 福祉住環境コーディネーターの役割と実務を理解し、同検定3級の合格を目指す。</p> | 2① | 15 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 資格対策講座12 | <p>【福祉住環境コーディネーター3級2】 福祉住環境コーディネーターに役割と実務を理解し、同検定3級の合格を目指す。</p> | 2② | 15 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 建築設計製図1 | <p>【プライベートスペースの計画】 建築設計製図1（プライベートスペースの計画）の授業では、便所、洗面室、浴室、ベッドルームを0.5坪（約1.65㎡）の小さいタイプから大きな面積のタイプへと、実際の考えられるプランを教材にAuto-CADを使用し、パターン演習を行っていく。ただ単に、トレースを行うのではなく、各室に必要な設備、寸法を理解し、空間に必要な要素を身に付けてほしい。また、実際のイメージ画像などを利用しレイアウトの仕方などについても学習を進める。</p> | 1② | 30 | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---------|---|----|----|--|--|--|--|---|---|---|---|--|--|
| ○ | | 建築設計製図2 | <p>【パブリックスペースの計画】</p> <p>この授業では、3期に実施される講義、キッチン計画、LD計画でそれぞれの空間に対する知識を身に付け、前半はキッチンメーカーのショールームに展示してあるラインを参考に、実務の中でも使用されるキッチンのコーディネートボードの作成に取り組む。ただトレースを行うのではなく、サイズや収納の仕方なども確認しながら完成させてほしい。後半は、1～3期前半の基本的な学習を応用して、住空間の基本計画が出来るようになることを目標に掲げて、これまで学習したことを活用し、住宅のプランニングを行う。自分で考えイメージを広げ、具体的に表現することを楽しみながら学習してほしい。</p> | 1③ | 30 | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | 建築設計製図3 | <p>【住空間の基本計画/平面計画】</p> <p>入学して半年、1期ではインテリアの全体像を把握することを、また2期はプライベートスペースの構成を理解することを、そして3期ではパブリックスペースの構成を理解することを目標に学習してきた。この4期では、1～3期の基本的な学習を応用して、住空間の基本計画ができるようになることを期目標に掲げて取り組んでいきたい。これまでは覚えることを中心にした学習だったが、本講座はそれ以上に今まで学習してきたことを活用し、自分で考えイメージを広げ、具体的に表現することが大切になってくる。自分で考え表現することはとても根気が必要な作業であるが、何よりも空間をイメージすることを楽しんでほしい。また、本講座の成果品は5期の設計実習・プレゼンテーションにつながり、ひいては就職活動をも左右する重要なものとなる。自分の未来を開くべく、旺盛な好奇心と実習への活発な取り組みを期待している。</p> | 1④ | 30 | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | 建築設計製図4 | <p>【住空間のコーディネート】</p> <p>4期では、1～3期の基本的な学習内容を応用して、住空間の基本計画に取り組んできた。それを受けて、今期の本講座では4期に立案した住空間の計画案を、さらにイメージを広げ、より具体的にコーディネートしていきたい取り上げる内容は、家具計画・色彩計画・素材計画・照明計画と広範囲におよぶが、全体の空間を的確にイメージしながら、今期行われる建築計画7（照明計画1）などの関連教科で学んだ基本事項もふまえて、ひとつひとつのインテリアエレメントをこだわりをもってコーディネートしてほしい。自ら考えイメージを広げ具体的に表現することは、とても根気が必要な作業であるが、何よりも自分がイメージした空間が、より鮮明に具現化していくことを楽しんでほしい。尚、本講座の成果品は、1年間の学習の集大成でもあり、就職活動をも左右する重要なものとなる。自分の未来を開くべく、旺盛な好奇心と活発な取り組みを期待している。</p> | 1⑤ | 30 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | 建築設計製図5 | <p>【2D基礎】</p> <p>コーディネーターが自分の設計を表現する際に図面を描き表現をしていく。建築・インテリア業界において今現在最も広く用いられている製図手法はPC上でのCADを利用した作図である。そこで、われわれもAutoCADを用いて図面を描けることを目指しますが、ただ単にAutoCADで図面を描くのではなく、図面を描くのにAutoCADを使いこなすレベルを目標とし、基本操作から順に習得してAutoCADを道具として使用できるように学習を進めていく。</p> | 1① | 30 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---------|--|----|----|--|--|--|--|---|---|--|---|---|--|
| ○ | | 建築設計製図6 | <p>【木造住宅の平面図】 私達が日常生活している住宅を通して、建築図面の作図法を学ぶ。この期では、日本に古くから伝わる構法で設計された、木造2階建て住宅を題材にその平面をAuto-CADを用いて作図していく。その過程で、図面の読み方はもちろんのこと、図面の描き方を身に付けていく。さらに、ただの図面の描き方に留まらずに、図面内に描かれている線分がどのような意味を持ち、何を表しているのかを理解してほしい。また、木造住宅を作成していく上での、重要なルールがあるので、各箇所を確認をしながら木造住宅に関しての知識を深めてほしい。</p> | 1② | 30 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | 建築設計製図7 | <p>【木造住宅の断面図】 私達が日常暮らしている住宅を通して、建築図面の作図法を学ぶ。2期では、日本に古くから伝わる在来構法で設計された、木造2階建て住宅の平面図をAuto-CADを用いて作図した。その過程で、図面の読み方はもちろんのこと、図面の描き方や、図面の描き方に留まらずに、図面内に描かれている線分がどのような意味を持ち、何を表しているのかを理解を深めてきた。また、木造住宅を図面を作成していく上で、重要なルールをいくつか覚えたが、この期では、その平面図を利用して、高さ寸法の間隔を理解する断面図、敷地周辺を含めた立面図を作成し、木造住宅に関しての知識をさらに深めていく。</p> | 1④ | 30 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | 建築設計製図8 | <p>【木造住宅の矩計図】 Auto-CADによる木造住宅の製図を、建築設計製図6・7に続いて実施する。建築設計製図6・7で描き上げた平面図、断面図、立面図に続き、矩計図の製図を取り組む。矩計図とは、建物の各所の詳細な高さを表すために作られる図面で、基礎から屋根までの詳細な情報を記入した断面詳細図を意味する。 この矩計図の作図を通して、木造住宅の構造、材料への理解を深めてほしい。</p> | 1⑤ | 30 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | 建築立体実習1 | <p>【3D基礎】 Shadeの使用方法を学び、様々な立体物を自由自在に作成できるように操作の習得に努める。パソコン上に作成された立体物に陰影や付影を行い、立体感を持たせると共に、色や、質感、反射具合などの諸属性を与え、よりリアルな画像を生成できるようになる。また、ウインドウのパラメータによる設定や座標軸などの3DCAD操作に必要な知識の習得に努力してほしい。</p> | 1② | 30 | | | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 建築立体実習2 | <p>【単位空間の立体化1】 今期の立体造形実習では、住宅の一部屋を3DCADで作成する。ある一部屋を作成することによってコンピュータを利用した建築パースの技術導入を行う。2期に勉強した3D技術の理解を深めるために部屋の3D作成から部屋の空間コーディネートを行いより建築・インテリア的な3D制作の過程を学ぶ。今期はラジオシティという技術を利用しての建築パースの制作を行う。部屋の床・壁・天井の作成、からインテリアオブジェクトの配置に関する配慮まで、ラジオシティを利用したCGの作成のための制作法を学んでいく。3Dでモデリングされた部屋を元にインテリアコーディネート案を提案、プレゼンテーションをします。今後行われる課題の作品を3Dパース化できるようになることを目的に、立体造形を学んでいく。また、3Dを作成して終わりではなく、コンペティションを目的としたプレゼンテーションボードの作成までを授業として行う。自分の伝えたいことをできる限りボードから伝えるために、Shadeを用いたモデリング・マッピング・ライティングなどの一連の流れから、PhotoShopを使用してレタッチ（画像修正）までを習得し、Illustratorを利用したプレゼンテーションボード作成を行って、自分の作品を発表するための作業の流れを学びとる。</p> | 1③ | 45 | | | | | ○ | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---------|---|----|----|--|--|--|--|---|---|--|--|--|---|
| ○ | | 建築立体実習3 | <p>【単位空間の立体化2】 3期に設計した住宅の内観パースのCGを作成する。3期の学習では、全員が同じ図面からパース作成を行ったが、4期のこの科目では、個人が設計したオリジナルの空間を用いて、ラジオシティを用いた内観パースCGの作成をすることにより、3期の学習の応用編として学習し、内観パースの作成法の定着を目的とする。空間の床・壁・天井の基礎モデリングとCADによる図面作成とモデリングを意識したポリライン化の重要性、ラジオシティを行うためのモデルの考え方、最終仕上げでのPhotoshopの有効活用を基礎学習として学び、内観パースCG画像を最終提出としてjpeg画像を提出する。</p> | 1④ | 30 | | | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 建築表現技法1 | <p>【デジタルプレゼンテーション1】 この授業ではプレゼンテーション用のボードやポートフォリオ作成に便利なグラフィックソフトウェアの習得を行い、それらの作品を作る準備をしていく。 Photoshop Elementsでは主に画像の効果的な色調補正の方法や合成技術を学び、3DCGで作成したイメージ画をより見栄え良く印刷するための技術をマスターする。 Illustratorは図形の描画に秀でたソフトウェアだが、その他、文字の組み方やレイアウトの手法も解説することで、Photoshopで作成した画像をはじめ説明図などを効果的に配置して「わかりやすく」かつ「美しい」ボードが作成できるようになる。</p> | 1④ | 30 | | | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 建築表現技法2 | <p>【デジタルプレゼンテーション2】 2期から4期まで学習してきた3D技術の集大成として、自分だけの力で内観パースの作成ができることを目標とする。また、新たな表現手法として俯瞰（平面）パースの作成を行い、表現手法の幅を広げていく。基本的な作成概念は同じであることを理解したうえで、作成方法の異なる部分を中心に学習を進める。この科目では立体造形の建築表現手法としてコンピューターを使った手法の特徴と利点・欠点をより理解し、どのような場合にコンピューターグラフィックを活用する必要があるのかを自己判断し、自身のプレゼンテーションに適宜必要となる表現を取捨選択した上でプレゼンテーションボードが作れるようになっていくことが重要なポイントとなる。3D立体として作成したパースをもとにプレゼンテーションボードを完成させるまでが授業目的となる。最終提出はプレゼンテーションボードをA2サイズ4枚の提出となる。</p> | 1⑤ | 45 | | | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 建築造形実習1 | <p>【空間表現技法】 入学して6ヶ月、AutoCAD、Shade、Photoshop、Illustratorなどのドローイングソフトの基本操作を学んできましたが、これらは人の手が線を引ながら作り出してきたもののデジタルへの置き換えと言える。 本空間表現技法では、本来人間がひとつひとつ線を引くことで描いてきた技法を取り上げ、その特徴を実際に自分の手で描くことでつかんでいきたい。取り上げる技法は、単純な図面から、アクソノメトリック、アイソノメトリックから透視図（パース）・建築模型におよびますが、それぞれの特徴を把握しながら、直接自分の手を使って適切な表現ができる礎を築いてほしい。また、こうした技法を学ぶことは、日頃使っている3Dの原理を解明することでもあり、デジタルツールを使いこなしていく上でもとても重要なことだと言える。</p> | 1④ | 30 | | | | | ○ | ○ | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----------|--|----|----|--|--|--|--|---|---|--|--|---|
| ○ | | 建築造形実習2 | <p>【家具製作1】 空間を作る上で家具の存在は極めて重要である。空間を演出する要素として最終的なイメージを決定するのは家具であると言っても過言では無い。ここではインテリアの構成要素であるその家具を自ら製作することによって、その構造や加工技術を学ぶ。まず今回はSPF素材を用いた最もプレーンな構成の椅子を手がけ、デザイン・構造・製作の基本を体得してゆく。授業に於ける留意点としては、専門の工作機械を使用する為、少しの不注意が大きなケガや事故（指の切断等）につながる事から、工房使用のルールと作業の注意事項を厳守し、私語は控え、整理整頓、清掃を必ず行うように心掛ける事。違反した者は授業の安全を確保する為工房使用を禁止とする。</p> | 1⑤ | 60 | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| ○ | | 建築設計製図9 | <p>【住空間の基本設計/断面計画】 1年次においては、1～3期に住空間の基本構成に関し学び、4・5期にはその応用として住空間の「平面構成」ができるようになることを目標に学習を重ねてきた。 この2年1期では、これまでの平面構成力に加え、空間の高さ関係を把握し、住空間の適切な「立体構成」ができるようになることを期目標に掲げて取り組んでいく。空間の高さ関係には、床のレベル差、窓の大きさ高さとの関係、吹抜による上下階の連動、屋根形状と小屋裏空間の利用の仕方、階段による視点の変化などが挙げられるが、これらを適切に計画し、またこれらを複雑に組み合わせることで、様々な表情をもった豊かな空間を創り出すことが可能となる。 本講座が、住空間の計画とは単なる平面構成「間取り」ではなく、空間を立体的に捉え関係付けることであるとの理解を促し、豊かな空間構成を考え提案していく原点となることを期待する。</p> | 2① | 30 | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| ○ | | 建築設計製図10 | <p>【2世帯住宅の基本設計】 1年次においては、1～3期に住空間の基本構成に関し学び、4・5期にはその応用として住空間の「平面構成」ができるように、2年1期では住空間の「断面構成」ができるようになることを目標に学習を重ねてきた。この2年2期では、これまでの学習の集大成として、住空間の総合的かつ実践的な提案に取り組んでいく。この取り組みは、設計条件の把握、敷地の調査、基本計画案A・B・C案の提出、基本計画案の比較、コンセプトメイキング、基本設計図書の作成、インテリアペーストの提案、インテリアエレメントの選定、プレゼンテーションへといたる住空間のデザインの現場で実際に行われている過程にそって深められていきたい。また、その過程の中で、住空間に関する自分の考え方を発表し、またクラスメートの意見を聞き、他者から学ぶ機会も増やしていく。各自の提案が、これらの取り組みの中で鍛えられ、住空間のあり方に対する本質的な問いかけを重ねた末に、これからの時代の新たなライフスタイルを示唆する豊かな空間構成を獲得することを強く期待する。</p> | 2② | 30 | | | | | ○ | ○ | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----------|--|----|----|--|--|--|--|--|---|---|--|--|--|---|---|
| ○ | | 建築設計製図11 | <p>【2世帯住宅の詳細設計】</p> <p>前期2年2期では、1年生からの学習の集大成として、住空間の総合的かつ実践的な提案に取り組み始めた。この取り組みは、設計条件の把握、敷地の調査、基本計画案A・B・C案の提出、基本計画案の比較、コンセプトメイキング、基本設計図書の作成へと、住空間のデザインの現場で行われている過程にそって深めてきた。今期の本設計実習7においては、前期作成した基本計画案をもとに、最終的なプレゼンテーションボードを取りまとめることを目標としている。扱う範囲は、基本計画案の再検討、インテリアアテーストの提案、インテリアエレメントの選定、3DCGの作成、図面表現などのデジタルプレゼンテーション手法などの多岐にわたりますが、限られた紙面の中で、設計意図がよりよく伝わるよう、楽しみながら様々な工夫を重ねてほしい。各自の提案が、これらの取り組みの中で鍛えられ、住空間のあり方に対する本質的な問いかけを重ねた上に、これからの時代の新たなライフスタイルを示唆する豊かなプレゼンテーションになることを強く期待する。</p> | 2③ | 30 | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | 建築設計製図12 | <p>【商業施設の基本設計】</p> <p>2年間にわたるインテリア課程も、8期が終わり残すところ2期のみとなった。入学以来これまでは、我々の暮らしの中心であり、インテリア計画の基本である住空間の計画にしぼって学習を続けてきたが、これからの2期は、その応用として「商業施設の基本計画」に取り組んでいきたい。</p> <p>特に今期は「商業施設概論」の講義と平行して「商業施設の基本計画」に取り組み、これからの商業施設のあり方を模索しまとめ上げることを目標とする。扱う範囲は、コンセプトメイキング、計画案のエスキス、プレゼンテーション方法の模索などと多岐にわたるが、商業施設に関する基本事項を学びながら、これからの時代にどのような商業施設が求められているか、楽しみながら考えを深めていってほしい。</p> <p>各グループ・各自の提案が、これらの取り組みの中で鍛えられ、現代社会における商業施設のあり方に対する本質的な問いかけを重ねた上に、これからの時代の新たなショップデザインを示唆する豊かな提案になることを強く期待する。</p> | 2④ | 30 | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ |
| ○ | | 建築設計製図13 | <p>【商業施設の詳細設計】</p> <p>2年間にわたるインテリア課程も、早いもので今期を残すのみとなった。入学以来これまでは、我々の暮らしの中心であり、インテリア計画の基本である住空間の計画にしぼって学習を続けてきたが、前4期からは、その応用として「商業施設の基本計画」に取り組みはじめた。</p> <p>特に今期は「ディスプレイ計画論」の講義と並行して、新たな商業施設の最終案をまとめ上げるとともに、商業施設をより具体的に計画する力を養うことを目標としている。扱う範囲は、計画案のエスキス、基本設計、詳細設計、そしてプレゼンテーションと多岐にわたるが、商業施設をより実践的に計画できるよう修練していきたい。</p> <p>各グループ・各自の提案が現代社会における商業施設のあり方に対する本質的な問いかけに達した上で、さらに実践的な計画力を身につけることを強く期待する。</p> | 2⑤ | 30 | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ |
| ○ | | 建築設計製図14 | <p>【商業空間の詳細図1】</p> <p>ショップデザインの概要を把握して、その業務に必要な実務内容を身につける。ここでは内装設計の図面の特徴を学び、作図能力(AUTO CAD)を身につけることを目的とする。さらにインテリア用語を理解し、実際の空間がどのように作られるかを知る。特に1期では、平面図、天井伏図、展開図の作図方法を実施レベルで身につける。</p> | 2① | 30 | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------|---|----|----|--|--|--|--|---|---|--|---|--|--|
| ○ | 建築設計製図15 | <p>【商業空間の詳細図2】 2期では1期と同様、図面の作成を手掛かりとして、ショップデザインの業務に必要な実務内容を身につける。 具体的には、図面の作図能力、図面の読み取り能力、主要なインテリア用語の理解、施工の納まり及び、その延長線上にあるデザインの理解、これらを目的として展開図、電気設備図、詳細図を作図する。 更に最終段階では、この物件の見積りを見て、見積りの見方や各工事の単価を知る。</p> | 2② | 30 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | 建築表現技法3 | <p>【アニメーション1】 今までにShadeの授業で学んだ立体表現の技術を生かし、よりデジタルプレゼンテーションのスキルを磨く。静止画での3DCGでは、なかなか表現できなかった部分や動きに関しても、モーションを設定し、アニメーションに作り替えることで簡単に相手に伝えることができる。現在では大企業を中心にアニメーションを取り入れたデジタルプレゼンテーションも頻繁に行われている。今期の目標としては、各種のモーションの基礎を学び、建築・インテリアに動きを取り入れることで空気感やスピード感のある表現手法を学ぶことにある。後半では、AdobePremiereを利用して、それぞれで作り上げたアニメーションを連結させたり、効果音を付けたり、画像の効果をつけたりとアニメーションの編集を学び、1つのアニメーションの完成を目指す。</p> | 2④ | 45 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | 建築表現技法4 | <p>【アニメーション2】 今までにShadeの授業で学んだ立体表現の技術/AdobePremiereの授業で学んだアニメーションの編集技術を生かして、よりデジタルプレゼンテーションのスキルを磨く。3DCGで作成した静止画での繊細さ、多様性と3Dアニメーションで作成した動画での躍動感や臨場感を表現の場面に合わせて利用し、さらに文字情報や音を合わせることによって、表現効果が倍増していく。自分の表現した作品にはどの様な手法が適しているのかを考察しながらデジタルプレゼンテーションを学んでいく。今期の目標としては、インテリア科で学んだ2年間の成果をデジタルプレゼンテーションとしてまとめ、学年末の卒業制作発表会に臨むことにある。</p> | 2⑤ | 45 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | 建築造形実習3 | <p>【家具製作2】 『SPF材を利用した家具（椅子）のデザインと製作』。1年次で家具を製作した事を踏まえて、ここでは自分で家具をデザインして製作するまでのプロセスを学ぶ。5期で連動し、4期では家具の基本的な知識（家具の種類や構造、材料、仕上げ、人間工学等）及び実製作のためのデザイン作業（スケッチ、製図、モデリング等）を修得する。与えられた条件に対して家具をデザインし、更に使用空間を設定したデザインを行うが、使用に耐えうるデザインや構造にする事。（イメージでデザインするのではない）5期ではその製作を行う。</p> | 2④ | 45 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | 建築造形実習4 | <p>【家具製作3】 4期で行った家具デザインの製作を行う。材料の木取り、製材、パーツ加工、研磨、接着、組み立て、研磨、塗装、プレゼンボード作成、講評発表まで行うものとする。製作の指導は個々によって進捗状況が異なる事から個別に行うものとする。電動工具の使い方と手工具の解説を行うものとする。</p> | 2⑤ | 45 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----------|--|----|----|--|--|--|--|--|---|---|---|---|--|--|
| ○ | | 測量実習 | <p>【測量実習】 測定の必要性、その理論の根拠などを概観する講義から授業をはじめ。実際に測量を行なうために必要な測量方法の知識と、道具の知識を学んで、実際のフィールドで測量を実施する。アリダード、平板、レベルという測量機器が正しく使えて平板測量、水準測量が行なえるようになることを目標とする。</p> | 2④ | 30 | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | 建築設計製図16 | <p>【2級建築士設計製図】 2級建築士設計製図試験は、2級建築士としての基本的な能力を実際の設計製図の課題を通して問うものである。試験では手書きによる製図技術が試され、試験条件に合わせたミスのない計画が要求され、設計の基本的能力を問う課題が出題される。ここではこれまで出題された課題をもとに、木造と鉄筋コンクリート構造の基本、設計条件の読み取りの要領、試験エスキースのポイント、正確で効率の良い作図技術などを学ぶ。</p> | 2⑤ | 30 | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | 長野実習1 | <p>【長野実習1】 いよいよインテリアコーディネーター（IC）学科試験まで残り3週間あまりとなったが、この長野研修では、IC学科試験【技術編】合格に向けて試験対策に取り組んでいく。入学してわずか半年足らずだが、これまで取り組んできた授業内容を中心に技術編に的を絞り準備を進めていく。取り組む内容は、過去試験問題7年分と模擬試験2回です。わずか5日間で取り組むには膨大な量であるが、単なる解法作業に陥ることなく、間違っただ箇所、理解が浅い箇所に対して、理解を深めるべく試験後のフォローに特に力を入れていきたい。インテリアコーディネーター（IC）試験は、単なる資格試験にすぎないが、それに真っ向から取り組むことは、インテリアに対する高度な知識のまとめとなり、ひいては実務に就いた際の総合的な判断を行う礎となる。資格試験を近視眼的にとれるだけでなく、その重要性を自分の将来の中に位置づけてほしい。今回の研修が、本年度の一次学科試験合格、そして来年度の二次試験合格と在学中のインテリアコーディネーター取得への第一歩となることを強く期待する。</p> | 1③ | 30 | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | |
| ○ | | 長野実習2 | <p>【長野実習2】 いよいよインテリアコーディネーター（IC）学科試験まで残り3週間あまりとなったが、この長野研修では、IC学科試験合格に向けて試験対策に取り組んでいく。入学以来、各期に期目標を掲げ、コア実習を中心に様々な分野の学習を積み重ねてきた。また、インテリアエレメントに関する授業では、ショールームやデザイナーズホテルなどを訪れ、実物をとおして具体的に学ぶことにも取り組んできた。いよいよそうしたこれまでの学びを取りまとめ、本試験に臨む最終準備を行う。取り組む内容は、過去試験問題7年分と模擬試験2回です。わずか5日間で取り組むには膨大な量であるが、単なる解法作業に陥ることなく、間違っただ箇所、理解が浅い箇所に対して、徹底した理解を得るべく試験後のフォローに特に力を入れてほしい。インテリアコーディネーター（IC）試験は、単なる資格試験にすぎないが、それに真っ向から取り組むことは、インテリアに対する高度な知識のまとめとなり、ひいては実務に就いた際の総合的な判断を行う礎になるはずである。資格試験を近視眼的にとれるだけでなく、その重要性を自分の将来の中に位置づけてほしい。そして、在学中のインテリアコーディネーター資格取得を目指し、今一度、入学当時に「インテリアコーディネーターになりたい。」と素直に思っていた自分の原点に戻り、謙虚に準備を進めてほしい。</p> | 2③ | 30 | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---------------|--|----|----|--|--|--|--|--|---|---|--|---|--|---|
| ○ | | リアルジョブプロジェクト1 | <p>【2期/問題発見プログラム】</p> <p>リアルジョブプロジェクト(RJP)においては、「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」などの技術力に留まらない「社会性(社会で活躍する力)」を身につけることを目標に、学科横断・企業連携によるPBL(Project Based Learning)に取り組んでいく。</p> <p>学生の皆さんはRJPの授業をとおして下記に示す能力の向上に努めること。</p> <p>①問題を発見し解決するために合理的に考える能力 ②人の話を聞き自分の意見を伝えるためのアサーティブな能力 ③自分たちの考えをまとめる能力とそれを発表する能力 ④問題解決に向かうための協調性と行動力 ⑤問題解決に向かうための時間等の管理能力</p> <p>特に2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか検討する「問題発見プログラム」に取り組んでいく。社会的に意義のある問題発見・課題設定ができるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p> | 1② | 30 | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | リアルジョブプロジェクト2 | <p>【3期/問題解決策定プログラム】</p> <p>特に3期においては、2期に検討した「問題発見プログラム」の解決に向けて具体的な方策を策定する「問題解決策定プログラム」に取り組んでいく。4期以降の円滑な活動に向け十分な検討ができるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p> | 1③ | 30 | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | リアルジョブプロジェクト3 | <p>【4期/問題解決実践プログラム】</p> <p>特に4期においては、3期に検討した「問題解決策定プログラム」の解決策にしたがって「問題解決実践プログラム」に取り組んでいく。年度末に十分な問題解決の成果が上がるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p> | 1④ | 30 | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | | リアルジョブプロジェクト4 | <p>【5期/問題解決報告プログラム】</p> <p>特に5期においては、4期に引続き「問題解決実践プログラム」に取り組むとともに、期の後半には年度末に行われる学習成果報告会に向けて、問題解決の報告をまとめる「問題解決報告プログラム」に取り組んでいく。学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p> | 1⑤ | 30 | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---------------|--|----|----|---|--|--|--|---|---|---|---|---|---|
| ○ | | リアルジョブプロジェクト5 | <p>【2期/問題発見プログラム】</p> <p>リアルジョブプロジェクト(RJP)においては、「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」などの技術力に留まらない「社会性(社会で活躍する力)」を身につけることを目標に、学科横断・企業連携によるPBL(Project Based Learning)に取り組んでいく。</p> <p>学生の皆さんはRJPの授業をとおして下記に示す能力の向上に努めること。</p> <p>①問題を発見し解決するために合理的に考える能力 ②人の話を聞き自分の意見を伝えるためのアサーティブな能力 ③自分たちの考えをまとめる能力とそれを発表する能力 ④問題解決に向かうための協調性と行動力 ⑤問題解決に向かうための時間等の管理能力</p> <p>特に2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか検討する「問題発見プログラム」に取り組んでいく。社会的に意義のある問題発見・課題設定ができるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期</p> | 2② | 30 | | | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | リアルジョブプロジェクト6 | <p>【3期/問題解決策定プログラム】</p> <p>特に3期においては、2期に検討した「問題発見プログラム」の解決に向けて具体的な方策を策定する「問題解決策定プログラム」に取り組んでいく。4期以降の円滑な活動に向け十分な検討ができるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p> | 2③ | 30 | | | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | リアルジョブプロジェクト7 | <p>【4期/問題解決実践プログラム】</p> <p>特に4期においては、3期に検討した「問題解決策定プログラム」の解決策にしたがって「問題解決実践プログラム」に取り組んでいく。年度末に十分な問題解決の成果が上がるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p> | 2④ | 30 | | | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| ○ | | リアルジョブプロジェクト8 | <p>【5期/問題解決報告プログラム】</p> <p>特に5期においては、4期に引き続き「問題解決実践プログラム」に取り組むとともに、期の後半には年度末に行われる学習成果報告会に向けて、問題解決の報告をまとめる「問題解決報告プログラム」に取り組んでいく。学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p> | 2⑤ | 30 | | | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| | ○ | 海外短期留学研修1 | 海外提携校(米オハイオ・ドミニカン大学)においてESL(English as a Second Language)講座並びに異文化コミュニケーションに関する実践的研修に取り組む。 | 1② | 90 | 6 | | | | ○ | | | ○ | ○ | |
| | ○ | 海外短期留学研修2 | 海外提携校(米オハイオ・ドミニカン大学)においてESL(English as a Second Language)講座並びに異文化コミュニケーションに関する実践的研修に取り組む。 | 2② | 90 | 6 | | | | ○ | | | ○ | ○ | |
| | ○ | 建築インテリア海外研修1 | 西洋の建築および都市に関する特別集中講義を実施するとともに、実際に現地(ヨーロッパ)に赴き空間体験することで、西洋建築並びに都市計画に対する理解を深める。 | 1⑤ | 90 | 6 | | | | ○ | | | ○ | ○ | |
| | ○ | 建築インテリア海外研修2 | 西洋の建築および都市に関する特別集中講義を実施するとともに、実際に現地(ヨーロッパ)に赴き空間体験することで、西洋建築並びに都市計画に対する理解を深める。 | 2⑤ | 90 | 6 | | | | ○ | | | ○ | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---------|--|------|----|---|--------------|---|--|--|---|---|--|--|
| | ○ | 国内建築研修1 | 日本の建築および都市に関する特別集中講義を実施するとともに、実際に現地に赴き空間体験することで、日本建築並びに都市計画に対する理解を深める。 | 1② | 30 | 2 | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| | ○ | 国内建築研修2 | 日本の建築および都市に関する特別集中講義を実施するとともに、実際に現地に赴き空間体験することで、日本建築並びに都市計画に対する理解を深める。 | 2② | 30 | 2 | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| | ○ | 国内環境研修1 | 東洋のガラパゴスとも呼ばれ、独特の地形地質、生態系、生物多様性を保全する小笠原諸島に関し特別集中講義を実施するとともに、実際に現地に赴きエコツーリズムを体験する中で、環境保全に対する理解を深める。 | 1⑤ | 60 | 4 | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| | ○ | 国内環境研修2 | 東洋のガラパゴスとも呼ばれ、独特の地形地質、生態系、生物多様性を保全する小笠原諸島に関し特別集中講義を実施するとともに、実際に現地に赴きエコツーリズムを体験する中で、環境保全に対する理解を深める。 | 2⑤ | 60 | 4 | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 合計 | | | | 93科目 | | | 2460単位時間(単位) | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|---|--|----------|----|
| 卒業、卒業学年次生が学則上の必須科目のすべてを履修した場合に卒業を認める。 | | 1学年の学期区分 | 5期 |
| 履修、当該科目の履修判定試験の6割以上の理解をもって合格とし履修終了を認める。 | | 1学期の授業期間 | 7週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

